

【特別講義要旨(1) '91. 4. 19】

## アメリカの世界観と日本

ウィリアム・ウッドラフ

(フロリダ大学大学院研究教授)

建国当初の USA には世界の救世主たらしめる世界観はなかったが、1980年代になると、世界の自由擁護のために選ばれた民であるという意識が強まり、その表われはウイルソン大統領の国際連盟、ルーズヴェルト大統領の国際連合の構想に見られる。

アメリカ人の理想主義と自信とは、キリスト教諸国に共通のものだが、それがとりわけ USA において強いのは、USA が多くの場合に微細な人的損失で領土を拡大して豊富な資源を獲得するという歴史的幸運に恵まれたからである。

しかし USA の絶対的に圧倒的な優位は1970年代に終わった。過去8年間に USA において前例のない多額の投資が行なわれた。USA はなおも世界の警察官としての役割を演じようとするかもしれないが、その費用を単独で負担する経済力は、もはやない。

世界は二極構造から多極構造に移行し、USA の地政学的地位は変化した。その移行のなかで、日本はもはや傍観者たることを許されない。USA では日本に対する批判が強まり、他方、ソ連と中国は日本に接近するであろう。その二つの関係では日中関係の方がより容易に発展しそうに思われるが、それには現実問題として各種の障害があり、また、その緊密化は、日本の USA やソ連との関係に水を差すであろう。また北米大陸の自由貿易圏と EC の成立は東アジアブロック経済の形成を促すかもしれないが、これにも現実的には各種の障害があり、またこの地域の USA への経済的依存度は非常に高いのである。

USA は軍事的にも経済的にも依然として超大国であるが、もはや単独で世界をリードすることは望めず、他国との協調が必要であり、とりわけ、日本との協調関係が重要である。

日米関係を危くするのは日常の行動様式の違いでなく、経済問題に関する考え方の相違である。日本人の観念は伝統に支配され、アメリカ人の観念は商業に支配されている。アメリカ人と日本人の話し合いがすれちがうのは、この文化的差異を無視するからである。アメリカが当面している課題は、過去理想主義と未来の厳しい現実の間を、うまく舵をとって進むことであり、人類の未来は、世界の変化に対する USA の適応力にかかっているのである。